

**ア ゴール型 サッカー 第1学年**  
**エ 球技 イ ネット型 バレーボール 第2学年**  
**ウ ベースボール型 ソフトボール 第2学年**

**学習指導要領改訂に係る主な内容及び内容の取扱いの改善**

「球技」については、従前どおり、生涯にわたって運動に親しむ資質・能力を育成する観点から、攻防を展開する際に共通して見られるボール操作などに関する動きとボールを持たないときの動きについての課題に着目し、その特性や魅力に応じて、相手コートに侵入して攻防を楽しむ「ゴール型」、ネットを挟んで攻防を楽しむ「ネット型」、攻守を交代して攻防を楽しむ「ベースボール型」に分類し示すとともに、「内容の取扱い」に、第1学年及び第2学年においては、これらの型の全てを履修させることが示されました。また、取り扱う種目については、従前から示されている種目の中から取り上げること、「ベースボール型」の実施に当たり十分な広さの運動場の確保が難しい場合は、指導方法を工夫して行うことが示されました。

**1 「球技」で学習する視点で単元の目標を確認しましょう。**

- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。
  - ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。
  - イ ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。
  - ウ ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができるようにする。
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- (3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする事、仲間の学習を援助しようとする事などや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

**2 手順1～6に沿って「単元の評価規準」を作成し、指導内容を明確にしましょう。**

**手順1 内容の取扱いを踏まえ、年間計画に各単元を位置付けます。**

本事例では、第1学年及び第2学年の内容の取扱いにおいて、「アからウまでをすべての生徒に履修させること」としていることを踏まえ、第1学年で①ネット型、②ゴール型、第2学年で③ベースボール型、④ネット型、⑤ゴール型を取り上げています。

